国際交流基金 日本語教授法シリーズ 11

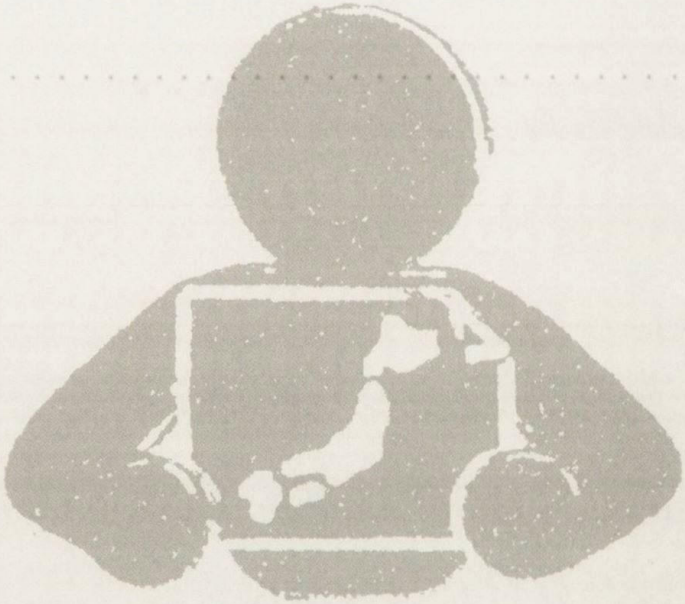
ひつじ書房

日本事情・日本文化を教える

JAPANFOUNDATION 国際交流基金

日本事情・日本文化を教える

国際交流基金 著



JAPANFOUNDATION 国際交流基金

国際交流基金 日本語教授法シリーズ

【全14巻】

第 1 巻「日本語教師の役割／コースデザイン」

第 2 巻「音声を教える」[CD-ROM付]

第 3 巻「文字・語彙を教える」

第 4 巻「文法を教える」

第 5 巻「聞くことを教える」[CD付]

第 6 巻「話すことを教える」

第 7 巻「読むことを教える」

第 8 巻「書くことを教える」

第 9 巻「初級を教える」

第10巻「中・上級を教える」

第11巻「日本事情・日本文化を教える」

第12巻「学習を評価する」

第13巻「教え方を改善する」

第14巻「教材開発」

■はじめに

国際交流基金日本語国際センター（以下「センター」）では1989年の開設以来、海外の日本語教師のためにさまざまな研修を行ってきました。1992年には、その研修用教材として『外国人教師のための日本語教授法』を作成し、主に「海外日本語教師長期研修」の教授法の授業で使用してきました。しかし、時代の流れとともに、各国の日本語教育の状況が変化し、一方、日本語教授法に関する研究も発展したため、センターの研修の形や内容もさまざまに変化してきました。

そこで、現在センターの研修で行われている教授法授業の内容を新たにまとめ直し、今後の研修に役立て、また広く国内外の日本語教育関係のみなさまにも利用していただけるように、この教授法シリーズを出版することにしました。この教材の主な対象は、海外で日本語教育を行っている日本語を母語としない日本語教師ですが、広くそのほかの日本語教育関係者や、改めて日本語教授法を独りで学習する方々にも役立てていただけるものと考えます。また、現在教師をしている方々を対象としていますが、日本語教育経験の浅い先生からベテランの先生まで、できるだけ多くのみなさまに利用していただけるよう工夫しました。

■この教授法シリーズの目的

このシリーズでは、日本語を教えるための必要な基礎的知識を紹介するだけでなく、実際の教室で、その知識がどう生かせるのかを考えてもらうことを目的としています。

国際交流基金日本語国際センターでは、教師の基本的な姿勢として、特に次の能力を育てることを目的として研修を行ってきました。その方針はこのシリーズの中でも基本的な考え方となっています。

1）自分で考える力を養う

理論や知識を受身的に身につけるのではなく、自分で考え、理解して吸収する力を身につけることを目的とします。

2）客観性、柔軟性を養う

自分のこれまでの方法、考え方にとらわれず、ほかの教師の意見や方法を知り、客観的に理解し、時には柔軟に受け入れることのできる教師を育てることをめざします。

3）現実を見つめる視点を養う

つねに現状や与えられた環境、自分の特性や能力を客観的に正確に把握し、自分の現場に合った適切な方法を見つける姿勢を育てることをめざします。

4）将来的にも自ら成長できる姿勢を養う

研修終了後もつねに自分自身で課題を見つけ、成長しつづける自己研修型の教師を育てることをめざします。

■この教授法シリーズの構成

このシリーズは、テーマごとに独立した巻になっています。どの巻からでも学習を始めることができます。各巻のテーマと概要は以下の通りです。

第 1 巻　日本語教師の役割／コースデザイン
} 日本語を教えるうえでの全体的な問題をとりあげます。

第 2 巻　音声を教える
第 3 巻　文字・語彙を教える
第 4 巻　文法を教える
第 5 巻　聞くことを教える
第 6 巻　話すことを教える
第 7 巻　読むことを教える
第 8 巻　書くことを教える
} 各項目に関する基礎的な知識の整理をし、具体的な教え方について考えます。

第 9 巻　初級を教える
第 10 巻　中・上級を教える
} 各レベルの教え方について、総合的に考えます。

第 11 巻　日本事情・日本文化を教える
第 12 巻　学習を評価する
第 13 巻　教え方を改善する
第 14 巻　教材開発

■この巻の目的

この巻の目的は、主に海外の日本語教育の現場で、日本事情や日本文化をどのように扱ったらいいか、具体的に考えることです。

海外で日本語を教えている先生方の中には、「日本事情や日本文化は専門ではないから教えられない」「日本事情や日本文化の範囲が広すぎて、何を教えたらいいのかわからない」と言う人が少なくありません。確かに、海外の現場では、教師も学習者も、日常生活で日本と接することがほとんどありません。そして、教師は、授業で扱う内容を、自分で日本事情や日本文化の中から、切り取らなければなりません。特に日本からの情報があまりない国や日本人が少ない地域では、教師が教える日本が学習者の日本観や日本人観を決めることになりますから、責任も感じるでしょう。それでも、やはり、日本語教育の中で、日本事情や日本文化を扱うことには意義があります。そして、この巻を読めば、「何を教えるか」より「どう教えるか」が大切で、海外の現場でもノンネイティブの先生方でも、扱えることがいろいろあることがわかると思います。

また、「(日本語を教えるときに) 日本のことも教えたいけれど、時間が足りない」「教科書以外のことを教える機会がない」と言う先生方もたくさんいます。きっと、日本語のカリキュラムや進度が決まっていて、日本事情や日本文化を教えるために、ゆっくり別の時間を取ることができないコースも多いでしょう。でも、わざわざたくさん時間を使わなくても、日本語を教えている授業の中に取り込んで、できることもあります。

この巻は、このようなさまざまな理由で、日本事情や日本文化を教えることを少しためらってきた先生方にも、学習者といっしょに考えながら、楽しんで教えることができる自信を持っていただきたいと考えて制作しました。もちろん、日本事情や日本文化の扱い方にはいろいろな考え方もいろいろな方法もありますが、この巻では、特に、ノンネイティブの先生方が日本から離れた海外の現場で教える状況を前提にしているので、次の2つの点を大きな柱にしています。

①海外では、日本在住の学習者に対する授業と違って、教師が提示する資料や情報が情報源として大きな位置を占めることが多い。しかし、その際、できるだけ一方的な知識の伝達やステレオタイプの押し付けにならないように、学習者が自分で見つけたり考えたりすることを大切にする。

②扱う内容については、学習者の興味や関心を大切にしながら、バランスを考える必要がある。伝統文化も大切ではあるが、学習者が自分や自分のまわりの人たちと比べながら考えられるように、学習者の興味や関心が高い現代の文化も同様に扱う。

■この巻の構成

1．全体の構成

本書の構成は、以下のようになっています。

1. 今までの授業をふり返る	今まで、日本事情や日本文化について、どのような授業でどのようなことを教えてきたか、ふり返ります。
2. 日本事情や日本文化の扱い方を考える	海外の現場で日本事情や日本文化をどのように扱ったらいいか、いくつかの国の例を見ながら考えます。
3. 内容を考える	海外の現場で、日本語の授業をしながら日本事情や日本文化を教えるときの内容を考えます。そのために、日本語の教科書にある日本事情や日本文化を拾い出して整理します。
4. 素材を考える	日本事情や日本文化を教えるときに使える素材を取り上げます。学習者に興味や関心を持たせ、彼らの理解を助けるような素材を考えます。
5.「日本事情・日本文化」を意識した授業を計画する	日本事情や日本文化を扱うことができる授業例を紹介します。
6. 学習者が学んだことを確認する	日本事情や日本文化について学んだことの確認や評価について、例を紹介します。

2．各章の構成

この巻のそれぞれの章には、次のような部分があります。

ふり返りましょう

自分自身の経験や教え方をふり返ります。

考えましょう

実際にいろいろな活動や授業の例を見ながら、それが、日本事情や日本文化を教える上でどのような意味を持っているのかを考えます。

整理しましょう

考えたこと、学んだことをもう一度整理して、その目的や意味を再確認し、今後の授業に生かしていけるようにします。

3．【質問】

この巻は、日本語を教えることを専門とする日本語教師が授業で展開できる日本事情や日本文化を扱っています。そのため、今まで考えたことがないような質問も多いと思います。それぞれの質問が、どのような意図を持っているのか、何を考えたらいいのか、よくわからないこともあるかもしれません。そのようなときは、「解答・解説編」を見てください。考え方の方向性やヒントが書かれています。そして、あらためて、自分はどう思うのか、今までなんとなく思ってきたこととどこが同じなのか、どこが違うのか、考えてみてください。

目　次

1 今までの授業をふり返る …… 2

1-1.「日本事情」や「日本文化」の授業 …… 2

1-2.「日本語」の授業の中で扱っている日本事情や日本文化 …… 3

2 日本事情や日本文化の扱い方を考える …… 8

3 内容を考える－初級の教科書の分析－ …… 20

3-1. 文化に関するコラムや紹介文など …… 20

3-2. 本文中の「日本に関係あることば」 …… 21

3-3. 本文中の「日常生活や行動を表すことば」 …… 23

3-4. ことば以外のもの …… 24

3-5. まとめ …… 27

4 素材を考える …… 28

4-1. 日本に触れる環境 …… 28

4-2. 写真を使う …… 29

4-3. 映像（動画）を使う …… 34

4-4. データを使う …… 34

4-5.「レアリア」を使う …… 37

4-6. 日本人や日本をよく知っている人を招く …… 40

5「日本事情・日本文化」を意識した授業を計画する 42

5-1. 日本語の授業の中に日本事情・日本文化を取り込む …… 42

5-2. 日本事情・日本文化を教えるための独立した授業を行う …… 56